

地域公共交通シンポジウムin九州 2015

パネルディスカッション 【議論に先立ちまして】

コーディネーター
大分大学経済学部
大井 尚司

2015/10/27

神戸200
あ・174
九州運輸局2015シンポ

話を伺って(簡単な整理)①

◎ 「移動」とは何を産んだのか

これまで> ①「産業」、「労働」、「経済」

・・・「交通」「移動」は「事業」だった
経済活動上の要素(黙ってても利用する)

②「空気」や「水」

・・・生きていくうえで不可欠(「湯水のように・・・」)
ただあって当たり前(なくなることはない前提)



いまは>> ①=一応産業、ただ経営は瀬戸際か破たん

・・・これまでの需要はあてにできない

②=不可欠だが「買う(創る)もの」に

・・・あって当たり前でなくなった+ただではない
ただ、それを受け入れられない?

☆ なくなったら生活できない、の必死感をどう共有化できるか

話を伺って(簡単な整理)②

○移動とは何を産むのか

- 知らない人同士の「対話」「交流」
- まとめ、(+の)気持ち、一方で批判、負担
⇒ +向けのカイゼンは効果的
役割を持ち、協働し、利用する⇒生活↑
- 「くらし(やすさ)」←移動できないと生活できず
⇒ 拠点整備の必要性(これに労働、経済が絡めばなおよい)
- 動けばつかめる、動かないからつかめない
⇒動いてつかめばやる気が出る、続く
地域・事業者の取りこぼしも相当数これでは？
【未経験も経験すれば反転できることも】

話を伺って(簡単な整理)③

- これまでの「**当たり前**」を疑い、**一歩踏み出す**
「タクシー会社はタクシー」「あれは回送」
「住民組織は町内会」「まずはコミバス」「毎日〇便」
「補助金〇円」「あそこはどうせ」「拠点は病院」etc.

* 放置すれば黒船にとられます！

- 「**不安**」は**不可避**なのか？

うまくいくのか、合意形成できるのか、そもそも乗れるのか
もっといえ、そこに住めるのか

⇒成功は偶然ではなく「**テマ・ヒマ・オジャマ**」の産物

- * うまくいかないと思っている人が創る限り不安で当然では？
- * 楽しんで結果得ようと思う限りは成功しない
- * 誰かが非協力だとうまくいかない(隠す理由があるのか?)

話を伺って(簡単な整理)④

- 「誰が動くか」

生瀬・柏原＝地域(住民)＋事業者＋行政

魚津＝行政＋地域(しかも動き方がバラバラ)

⇒ 誰かを待つのではなく動いたもの勝ち

動いた(かかわった)うえ、「巻き込む」ことが必要

*「事業者が動く」の例は出来ない？

- ポジティブな「パクリノベーション」

手間暇かけての「改善」を伴うコピーはありかも

「ことば」「利用しない利用者」に惑わされない！

- 「チェック」と「カイゼン」

失敗しても繰り返し振り返りの実践が重要

「変える」勇気が重要

「コンパクト＆ネットワーク」 「対流促進」とは・・・

- 人が「集まる」⇒おのずと「まとまる」=compact
⇒「つながり」ができる=network
⇒「移動」する=何らかの道に乗る
⇒「道」=交通(機関)+network
- 「集まる」には？ =「目的」+「おでかけ」が必要
⇒ どうせ集まるなら「楽しい」「生産的な」方
が良いに決まってる(この意味で病院は×)
⇒その要素は？ : 健全な身体・心+移動+目的+場
(+お金)

ということは、当たり前前のことを当たり前前にしていれば出来ること
何故できなかつたか？ =大きくは「順番」か「本質」の間違い

よく考えると・・・

- 「網」は「マスタープラン」だし「戦略」
 - 一般企業： 「顧客」を「つかんで」打つのが「戦略」
⇒ 交通はこれが逆順になっていないか？
「何をしたいか」をはっきりさせ、皆で共有し、創る
※これをコンサルに一から作らせるようではダメ

- 実はすべての主体が「追いついていない」？
 - 自治体と事業者と市民の「言語」が違う
コンサルの立てた計画・知識に行政が追いつかない
運輸支局が追いついていない（見解が異なる？）
興味も関心もない、でも時は流れ制度は変わる
→ そのまま放置したらダメ！
(当然住民も無関心無理解ダメ)

あるフォーラムのやり取りから①

- 「くだらない」話が多い？⇒この脱皮が「一歩」？
やはり使う人が置いてけぼり？←よそに合わせる、が優先？
声の大きい人の話って「キカンシカタル」レベル
邪魔が多数：見栄、意地、しがらみ、思い込み、・・・
- カギは「網につながる絆」「余裕」「待ちではなく自分で」
ネットワークの始まりは一つのつながりから
聞く余裕、考える余裕、理解する余裕、「一呼吸」の余裕
依存症はいいことない（最悪はコンサル依存症？）
事業者も動いてほしい（動かないから行政がバス屋になる）

あるフォーラムのやりとりから②

- 移動手段の「交通」には「交わり通じる」が必須：
交通の「網（network）」のためのヒトの「網（絆・
つながり：network）」が重要

対話と理解のないところに改善は生まれない

頼り・頼られる関係が拡大再生産（正のスパイラル）に
コンサルも貴重な存在 → でも計画策定者ではない

- 「余裕」の重要性

関係者の「業務的・心理的・精神的・時間的」余裕と理解

例) 互いの理解（心の余裕）、納期、「現実性」・・・

⇒ 「テマ・ヒマ・オジャマ」ができずろくなものが出ない
人材・リソースの「余裕」

知識面での「余裕」⇒ないから藁をつかむ

「出すぎない」「度が過ぎない」（←焦りがあると出すぎる？）

ディスカッションの内容

★テーマ1★

今日の事例発表を聴いての感想など

★テーマ2★

自治体と交通事業者と住民の協働のあり方

活性化再生法において、関係者相互間の連携と協働の促進などが求められるところ、自治体と交通事業者と住民がどのように協働していくか？

⇒パネラー間で若干やり取りします